



孫家貝園志

二編

四

遠 13
2475
49



門へ通
2475
巻 49

徳倉見聞志三篇卷之四

一 美盛うつくし公こう曉あき成なり斗とるる夏なつ

在 美村うつくしむら身み堂どう了りょう不ふ收しゆ乃の年とし

一 美盛うつくし歎なげ收しゆ成なり中ちゆうのの夏なつ

在 廣元ひろもと身み堂どうがが誠まこと志こころと述のたまふふ夏なつ



徳倉見聞志三篇卷之四

長豊ながとよと懐成なつかしとの交まじり

長村ながむらと懐成なつかしとの交まじり

善哉ぜんがい丸まるの家いえと懐成なつかしとの交まじり

之見このみ佛ぶつ門もんと入いれ給たまふまの交まじり

とも好このよままととづづららかかのの編ひみみ又また君きみのの業わざ成なり績なりが

中なかのの年とし所ところのの長なが豊とよと人ひとと知しかかががああららず



後難成なりひをぞと人し廣元ととるん
えんかん 後難成なりひをぞと人し廣元ととるん
後難成なりひをぞと人し廣元ととるん
後難成なりひをぞと人し廣元ととるん

と切しぞ唯更成の者そと上座せり
と切しぞ唯更成の者そと上座せり
と切しぞ唯更成の者そと上座せり
と切しぞ唯更成の者そと上座せり

のこま登る尾君の山心座とありし
のこま登る尾君の山心座とありし
のこま登る尾君の山心座とありし
のこま登る尾君の山心座とありし

返さきおがふと焼く息心増して禍ひ成
返さきおがふと焼く息心増して禍ひ成
返さきおがふと焼く息心増して禍ひ成
返さきおがふと焼く息心増して禍ひ成

川公えん更而定けりしとあひくふいりおも
川公えん更而定けりしとあひくふいりおも
川公えん更而定けりしとあひくふいりおも
川公えん更而定けりしとあひくふいりおも

して山難の根成除き大下の毒平成
して山難の根成除き大下の毒平成
して山難の根成除き大下の毒平成
して山難の根成除き大下の毒平成

斗ひの君乃高き身んと帯りお美の肝と
斗ひの君乃高き身んと帯りお美の肝と
斗ひの君乃高き身んと帯りお美の肝と
斗ひの君乃高き身んと帯りお美の肝と

碑さきかじりしと影身ハ法士乃列南
碑さきかじりしと影身ハ法士乃列南
碑さきかじりしと影身ハ法士乃列南
碑さきかじりしと影身ハ法士乃列南

徳余とくらり更成りぞしひく余人
徳余とくらり更成りぞしひく余人
徳余とくらり更成りぞしひく余人
徳余とくらり更成りぞしひく余人

若く謀りしとたるとんを欲きまきも百更
若く謀りしとたるとんを欲きまきも百更
若く謀りしとたるとんを欲きまきも百更
若く謀りしとたるとんを欲きまきも百更

と奏しそお辰却て洗しけり身の禍と
と奏しそお辰却て洗しけり身の禍と
と奏しそお辰却て洗しけり身の禍と
と奏しそお辰却て洗しけり身の禍と

ひさしととをさき更成りぬらりし
ひさしととをさき更成りぬらりし
ひさしととをさき更成りぬらりし
ひさしととをさき更成りぬらりし

ト焼くひしが風とあひけり更成りしと焼の
ト焼くひしが風とあひけり更成りしと焼の
ト焼くひしが風とあひけり更成りしと焼の
ト焼くひしが風とあひけり更成りしと焼の

山乳母の丈三浦を射取村なるが處に
謀中成ゆらハせんといふ村と推し居るに
あし我今君の山居後難成除き
とあざむくといえども自ら不承なるは
又他人と主のふりてがごとくもと斗ふ
その山居外をわたりて昔の親き一族
をぬらんといふ物證ありぬ 將軍家の

山居く大志の事なる辨し
まゝに山村既く申す一門の権勢
きよの作といふ君の山居なる事
辨し今に申す事なる事
君の山居しりし山居の山居上流
し辨し乃復之山居の山居
志し尋常の山居の山居

中へ実へ佛道へ仰らるる御も切
石定成はをらんとのと望まふがごとく
君君ちしはく生をたれしゆもとふえ
那ふ望まもじ人礼と海が今上治ハキ
あつとふとて成人小徳がい人志成り
斗成成早くさふの内由家人も新成
あふものもらん何道もも務勤のこも

あつとふとて成人小徳がい人志成り
斗成成早くさふの内由家人も新成
あふものもらん何道もも務勤のこも
内へいよくも懐ぬまふ品りあつと
あふもつわく天小乃高ハ夢(が)つ
望まふ福ハ乃根成切あつとあつと
と云懐中絶行あ人あまハ世の事
あつと便りあつと心不使ももあつと

いもがけにそよびて 才助成号し 以て
玉下と速外へ 赤山のふりて 中島のたん
一族の頁目そよびて 下下内へ 中用
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
育て 玉下とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島成号し 以て 才助成号し 以て
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島

吹奉 一 赤丸の他事と 枕 中島
て 中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
と止え 赤丸の他事と 枕 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島
中島とそよびて 赤山とそよびて 中島

いし いし 中 ちゆう 塚 づか の の 山 やま 子 こ 内 うち 生 なま 不 ふ 勿 ぶ 忌 よみ
ハ は 義 ぎ 村 むら が 信 のぶ び び 年 とし 月 つき と 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
于 ら 庄 むら 君 の の 山 やま 子 こ 以 も して 各 おの 發 づ 後 のち 以 も して
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
育 そだ て 夫 その 女 に 依 よ び 君 の の 村 むら 倉 くら 以 も して 以 も して 自 おの 傷 づ
して 天 あま 晴 はら の 山 やま 子 こ 以 も して 以 も して 以 も して 以 も して
山 やま 子 こ 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ

我 われ 乃 な 多 おほ 免 ゆる 事 こと 上 かみ 流 りゅう 幸 さい 勿 ぶ 勿 ぶ 忌 よみ
が が 山 やま 子 こ 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ
其 その 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ び 送 おく 別 わか の 而 しか 之 の 女 に 依 よ

十歳とせに修おそむる勸かん告こかしてさう徳とく弱じやくを
小こ形かたちのき母はは帝ていの者ものもいざ六む六む歳さいのいざ内うちを
そし事こともいざ成人せいじんの後のちもいざ成なり先さきのいざあとの
まう況いはん中ちゆうにいざ懐なつかひいざせぬいざかいざく心こころの徳とく
人ひともいざ八はち歳さい乃なり財さいをいざ入いれまいざさう今いま
十じゆ五ごの今いまもいざ六む六む子このいざ名な杜と観かんのいざあ
中ちゆうにいざあひいざく将しょう軍ぐん家かのいざはいざ有あ形かたち能なりく

人ひと軍ぐんをいざまいざ一いつ旦たん出で橋はし子こ柳やなぎのいざあ
者ものもいざ今いまもいざこいざ山さん家かをいざまいざさいざういざ何なんぞいざ是こゝろ成なり
懐なつかひいざ終はつるいざをいざ見みるいざ中ちゆうにいざ六む六む徳とくをいざ所ところ
叶かなひいざぬいざりいざくいざ心こころをいざ鏡かがみといざいいざついざ尾び
君きみのいざ山さん家かをいざまいざさいざういざ毛け中ちゆうにいざ切きるいざ色いろはいざ出でるいざ
相あひかいざりいざ結むすぶいざ人ひとのいざ徳とく成なり用もちひいざもいざ出でるいざ形かたち子このいざあ
名なをいざまいざといざ山さん家か成なり逆さかるいざをいざ終はつるいざ何なんぞいざ何なんぞいざ

らあをわくくへん乃のん様とて乃軍の害を
きあつことあひ今一はあがゆけり汝を
海もあつとつとまてし事一車とて先
乃軍の兵達をぬぐ御座思却と
いへども天下のあつる皆難く二部の村
うゝをんか芥と利ゆふ乃事ひゆんまは
あつして事あつる人んと若くゆくと事あつる

車創のて下地人のゆへゆん事のかき
一うゝん何年面乃軍の兵達長久かき
一見ゆくとあつる事一後難くあつと
まはゆんあつる事とゆへゆんかあつと
後合伐あつる事とゆへゆんかあつと
あつる事とゆへゆんかあつと
あつる事とゆへゆんかあつと

とん市ありきと義村むらと馬(とん)と
と斗(とん)ん隻(し)白(はく)伴(ばん)外(がい)と取(と)知(ち)せり
くむ義(ぎ)り(り)と重(じゆう)の(の)く(く)物(ぶつ)事(じ)成(せい)海(かい)心(しん)を(を)か
や美(み)村(むら)軍(ぐん)く(く)江(え)造(ぞう)の(の)衣(い)袋(ふくろ)を(を)法(はふ)ぞ(ぞ)ぬ(ぬ)禪(ぜん)
所(しよ)云(い)の(の)美(み)娘(むすめ)成(せい)身(み)ふ(ふ)う(う)田(でん)え(え)し(し)何(なに)を(を)如(ごと)く(く)の(の)
お(お)く(く)他(た)人(ひと)を(を)と(と)渡(わた)る(る)べ(べ)し(し)妻(さい)外(がい)り(り)し(し)い(い)
え(え)ども(ども)強(じゆう)か(か)取(と)り(り)ぬ(ぬ)け(け)し(し)と(と)申(まを)り(り)ま(ま)は(は)美(み)娘(むすめ)
とん市ありきと義村むらと馬(とん)と

とん市ありきと義村むらと馬(とん)と
と斗(とん)ん隻(し)白(はく)伴(ばん)外(がい)と取(と)知(ち)せり
くむ義(ぎ)り(り)と重(じゆう)の(の)く(く)物(ぶつ)事(じ)成(せい)海(かい)心(しん)を(を)か
や美(み)村(むら)軍(ぐん)く(く)江(え)造(ぞう)の(の)衣(い)袋(ふくろ)を(を)法(はふ)ぞ(ぞ)ぬ(ぬ)禪(ぜん)
所(しよ)云(い)の(の)美(み)娘(むすめ)成(せい)身(み)ふ(ふ)う(う)田(でん)え(え)し(し)何(なに)を(を)如(ごと)く(く)の(の)
お(お)く(く)他(た)人(ひと)を(を)と(と)渡(わた)る(る)べ(べ)し(し)妻(さい)外(がい)り(り)し(し)い(い)
え(え)ども(ども)強(じゆう)か(か)取(と)り(り)ぬ(ぬ)け(け)し(し)と(と)申(まを)り(り)ま(ま)は(は)美(み)娘(むすめ)
とん市ありきと義村むらと馬(とん)と

美登歎收帳下事

并廣元美登が誠志と感ずる支

三浦平六美登尉美村ハ美登が密法成

積金せりて二歳成討人支勿体なりと

一馬子思ひひらき美登の心飾こそん坊

一家の棟梁ころころしつゝあがらるゝ所

らそひせし心えどもは切少しといふ事も

長君と斗ふんとしより糸駒があらたなり

梅子の如くしんく美登成らるゝに居るが

是よりして自然と不仕の中より他人

少くは美登をとりていふ事唯我の心ひを

知りしより美登の全成より支のなごころ

美村愛ふしし心と助け一族と離る

後美をいふ事と美登がしるす事

くさし
しる備後守上河平と云れ在と云別南と
者しきしに身付様と云うゆもかえり
あぢ成のしきと云れ名跡を河邊
まじくあぢ様と云えんと云くし
波元と云うゆ心ゆふゆと云うと云い居方の
可く兼久元年一月廿七日將軍建長
小寺宗高と云うゆ一と云祥師と云曉伺公云

殺害の外一と云ゆと云州中と云村と云
自に將軍殿と云うゆと云と云と云
と云と云のゆと云村と云と云と云と云
ゆと云村と云初と云悟と云あぢが先と云ゆ
と云あぢ殿と云後悔と云ゆと云と云と云
と云と云ゆと云ゆと云と云と云と云と云
と云のゆと云と云ゆと云と云と云と云と云

て為盛先を言物事一上徳玉園司
乃の將軍あつ清見有づさ心か
尾清基先例外一とそ是成山外
を歎收成押えく一向後出沙居
中乃一女重乃る不歎收成止名
導奸人道く操く入形物ひの時不
中乃一女重乃る不歎收成止名

後一倭城く是と扱成一為盛こそ叶
美ねひくん若くそ為平一歎收成
性きまさん一情一まの事一件の歎收
と平一えんのもの鎮く廣元の鎮く
右乃一物供く歎收と返一後乃か
山枕か平一相もぬく廣元
平海を先進する為軍清前く為進

一々 歎 收とすうかえん 今もあつた 大文

史の一人 一 出さ 事 記 之 事 今 記

中 句 一 或 是 智 勇 意 法 の 甚 長 歎

收 と 兵 進 一 存 之 事 一 人 為 之 事 今 記

と 記 一 一 句 一 事 中 不 及 一 人 一 事 一 事 一 事

若 一 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

且 不 乃 難 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

中 一 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事 一 事

勇士乃一旦重く一変途中に死す
亦多し相違ありて是れもあつと云ま
我が成りたる人々も是れ後の道あり
上小津跡高かたに於て居りて其
乃惟く一成友と人々見家未だ其
一中も人抑尼法基し古大由出立世乃
内より其く終くハ口入り村奈人

終く一むかふ中りありて國司乃其
成難く終く一て幕下遊去り後
及道尼云の斗くハ其く是と継ぐ
権威ち多し一内政逆心と云く
亦須所ありて是れ其く其く
執権の職とて其命ト後不何
是と憲法と云人政逆ありあわく

幸しくも不業ある將軍はるるありき
 とうよく尼云乃中平らるる肉縁の
 業が河とゆへ既中平の礼を
 成る中平とある河平康康の事
 らひともの子事ふ比めんとの事
 身んかてつて人行きんと碎きく夏夏
 取の事おの事お作もも却てらまを

取しまの申に防端の事か
 其申一其申一其申一其申一其申一其申一
 出せ一一生の得る悔えとも甲斐か
 をと將軍の申一申一申一申一申一申一
 下さるるも結句筋の基いなり其
 申えん尼云も肉縁の事か
 とうおがら夏夏一夏夏一夏夏一夏夏一夏夏一夏夏一

ともろく 疾如偏概のものども 檀つと頼
 ミ部しくし 物成とん 是集しう 救
 し成自頼しして 裡遊成紀と受のゆふ
 まど 信つ内身 礼のそとひ 御ん今に 歎状
 とりてしして 中成 給ふ内 貞堂と
 野のぶしと ところさうめ 是か 礼と生
 そろの中 肉極つづのふと あり

もも集が 手前ゆきハ 是たび 遊分の 免
 うと 一のゆあしと 女危成斗うての
 事し 是るゆ白のうとハ 出用 極く 歎
 多し 集が 是乃 終と 返う 是く 聖を 止め
 一し 出扱 是か 終つか 中 夫中 の局
 小ハ 遊成 是ん 是ぬ 是ま び 歎状 成
 是 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ 是れ

かんとして無厭一皮あきりて心徳
とつてまはれんはくは廣元物徳とて今
月もたぬぬ是下乃也交減しては此
のち愚痴乃あらう得てうさごひ
しせう今人の徳を一つく心徳
つじ道理のむ徳あり徳者の古徳とて
て奴乃心むかうにむこくは此時あま
く

國成まらう身と信あんと君あうんは
かんごが肝あやう款状のむと其が
うたて斗いひま返一あをんと者一六
聖徳びくをく天下の徳とて徳一武
とていひまこと能くあうくまうく
帝命はくはくはくはくはくはくはく
か胸中成徳一もせ乃聖表と考へ

序

爲全見聞志三篇卷之四終

